

医学用語の点字表記について

第2版

発行 日本点字委員会

初版 2011年6月30日

第2版 2021年3月1日

— 目次 —

I	第2版発行について	1
II	初版 はじめに	2
III	医学用語の点字表記の基本的考え方	2
	1. 医学用語における語の書き表し方 （促音、数字表記などについて）	2
	2. 医学用語における自立語内部の切れ続き	6
IV	漢方薬などの名称の切れ続きなどについて	19
	1. 生薬名の切れ続きについて	19
	2. 漢方薬名の切れ続きについて	19
V	同音異穴の点字注記について	22
	1. 経過および注記の考え方	22
	2. 注記の具体例	25

I 第2版発行について

日本点字委員会

日本点字委員会（以下「日点委」と略記）では、2018年11月に『日本点字表記法 2018年版』（以下「表記法 2018」と略記）を発行した。

この「表記法 2018」では、第3章「語の区切り目の分かち書きと自立語や固有名詞内部の切れ続き」の前文および切れ続きの幅の考え方や表現などを変更した。これを受けて、2019年度開催の第55回日点委総会において、2011年発行の「医学用語の点字表記について」を見直し、「表記法 2018」に準拠したものとすることを決定した。

振り返ってみると、2011年6月「医学用語の点字表記について」（以下「医学表記」と略記）の発行以降、2013年に「『医学用語の点字表記について』に対する問題提起」のレポートが提出された。その内容は、「医学表記」に対して、位置づけが明確になっていないことや全体として規則と語例との検証が必要であるなど9項目にわたる問題点の指摘と、修正を求めるものであった。

これに対して、2014年には「『医学用語の点字表記について』に関する意見」と題して、2013年のレポートに対して、医学用語の範囲や点字表記のルールについての反論が提出された。

また、2019年には「表記法 2018」の発行を受けて、「新3章と医学用語の切れ続き」と題するレポートが提出され、「医学表記」における切れ続きを、「表記法 2018」のルールに則して整理する試みが行われた。

これらのレポートや研究協議会での議論などを踏まえて、今回「医学用語の点字表記について 第2版」としてまとめ、発行するものである。この分野における試験問題・指導用教材・教科書・専門書などに携わる方々に活用していただければと願う次第である。

なお、この資料は、医学用語の点字表記についてまとめたものであり、掲載した語例が一般用語の点字表記にまで影響を及ぼすものでないことを補記する。

Ⅱ 初版 はじめに

2011年6月5日、日本点字委員会第47回総会は、それまで4年にわたって討議してきた、医学用語点字表記専門委員会による答申を受けて審議した結果、本書のように決定した。

本書によって、今後のあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験問題と全国の特別支援学校（盲学校）並びに視覚障害関係諸施設において使用されている教科書等の点字表記が統一されることを望んでいる。

Ⅲ 医学用語の点字表記の基本的考え方

第2版では、初版の内容が「表記法 2018」でどのように位置づけられるかを分かりやすくするために、まず「表記法 2018」の規則や注意を示し、その後に該当する「医学用語の例」を掲載した。

1. 医学用語における語の書き表し方 （促音、数字表記などについて）

第2章 語の書き表し方

第1節 基本的な仮名遣い

4. 促音（つまる音）

促音は、促音符（ㇿ）を用いて書き表す。

[医学用語の例]

オートツキ（横突起） ケツカン（血管）

ケツショー（血漿） ケンコー□セツコン（肩甲切痕）

コッタン ナンコツ（骨端軟骨） セツケツキュー（赤血球）
セッシ（切歯） ゼッコツ（舌骨） ゼッシツ（舌質）
ゼツタイ（舌苔） ハツケツビョー（白血病）
ロツカンン ドーミヤク（肋間動脈）

【注意】 次のような促音化にゆれのある語は、意味の理解を容易にするために、なるべく「キ」「ク」「ツ」と書き表す。

[医学用語の例]

キョクカキン（棘下筋） セキキン（赤筋）
ソクカンセツ（足関節） チューソクコツトー（中足骨頭）
ハクキン（白筋） ナイゼツキン（内舌筋）
コーシケツショー（高脂血症）
テイ $\begin{matrix} \text{::} & \text{::} & \text{::} & \text{::} & \text{::} & \text{::} \end{matrix}$ ケツショー（低Ca血症）
コーコレステロールケツショー（高コレステロール血症）
ダイタイン チョクキン（大腿直筋）
ロクケイン ドーミヤク（肋頸動脈）

第3節 数字やアルファベットなどを用いた語の書き表し方

6. 漢字音で読む数の書き表し方

数量または順序を意味する語で、漢字音で発音する場合には、数字を用いて書き表すことを原則とする。数量や順序の意味の薄れた慣用語では、意味の理解を妨げない限り、仮名を用いて書き表す。

7. 和語で読む数の書き表し方

数量または順序を表す語でも、和語の場合は、発音するとおりに仮名で書き表す。

【注意】 和語で発音されるものであっても、漢字音の並びに入ってい

るものは数字で書き表す。

[医学用語の例]

[例1] 3節6. 前半の用例

ガク ☰☷ フクキン (顎二腹筋) ☰☷☷ シチョー (十二指腸)
☰☷☷ カタ (五十肩) ☰☷☷ カクキン (三角筋)
☰☷☷ ショー (三焦) ☰☷☷ ギョー (五行) ☰☷☷ コー (五香)
☰☷☷ ケイ (十四経) ☰☷☷ カイ ☐ カンキリョー (1回換気量)
ガイソク ☐ ケイ ☰☷☷ カク (外側頸三角)
ジョーワン ☐ ☰☷☷ トーキン (上腕三頭筋)
☰☷☷ サ ☐ シンケイツー (三叉神経痛)
ダイ ☰☷☷ ☐ ノーシンケイ (第四脳神経)
☰☷☷ イン ☐ ☰☷☷ ヨー (三陰三陽)
☰☷☷ ゴー ☐ ☰☷☷ プ (五臓六腑)
☰☷☷ コー ☐ ベンショー (八綱弁証)
キケイ ☐ ☰☷☷ ミヤク (奇経八脈)

[例2] 3節6. 後半の用例

カンツイ ☐ ジュージ ☐ ジンタイ (環椎十字靭帯)

数字を含む経穴等の表記について

(1) 数量や順序の意味が強い経穴名は数字を用いて書き表す。
また、要穴・組み合わせ穴の名称なども数字を用いて書き表す (3節6. 前半の用例)。

[例] ☰☷☷ インコー (三陰交)

☰☷☷ ヨーラク (三陽絡) ☰☷☷ ショーユ (三焦俞)
☰☷☷ シンソー (四神聡) ☰☷☷ カ (四華)
☰☷☷ ジャ (八邪) ☰☷☷ ホー (四縫)
☰☷☷ セン (十宣) ☰☷☷ プー (八風)
☰☷☷ ソーケツ (四総穴) ☰☷☷ ☰☷☷ エケツ (八会穴)

☰☷ ソーケツ（八宗穴・八総穴）

カッケ ☱☷ ショ（脚気八処）

チューフー ☱☷ ケツ（中風七穴）

（２）数字を含む経穴名であっても、数量や順序の意味の薄れた慣用語は、意味の理解を妨げないかぎり、仮名を用いて書き表す（３節 6. 後半の用例）。

[例]

督 脈：ヒャクエ（百会）

大腸経：ジカン（二間） サンカン（三間）

 テサンリ（手三里） テゴリ（手五里）

胃 経：シハク（四白） アシサンリ（足三里）

膀胱経：ゴショ（五処）

腎 経：シマン（四満）

三焦経：シトク（四瀆）

胆 経：ゴスー（五枢） チゴエ（地五会）

肝 経：アシゴリ（足五里）

（３）和語の数字を含む組み合わせ穴などは仮名を用いて書き表す（３節 7. の用例）。

[例] ムツギュー（六つ灸）

（４）和語で発音されるものであっても、漢字音の並びに入っているものは数字で書き表す（３節 7. 注意の用例）。

[例] ☰☷☷ ツイ（十七椎）

12. ローマ数字

ローマ数字は、該当するアルファベットに外文字を前置して書き表す。大文字 1 字の場合には、外文字の後ろに大文字を添えて書き表す。

し、複数のアルファベットすべてが大文字の場合には、二重大文字符を添えて書き表す。ただし、大文字と小文字を特に区別する必要のない場合には、外字符の後ろの大文字符や二重大文字符を省略してもよい。

[医学用語の例]

グン□センイ (I a 群線維)
アンギオテンシン□ (アンギオテンシンII)
ガタ□アレルギー (IV型アレルギー)

【注意】簡略にアラビア数字を用いて書き表してもよい。

[医学用語の例]

ダイ□ノーシンケイ (第8脳神経)
← ダイ□ノーシンケイ (第VIII脳神経)

2. 医学用語における自立語内部の切れ続き

第3章 語の区切り目の分かち書きと自立語や固有名詞

内部の切れ続き

第2節 自立語内部の切れ続き

1. 区切ると意味の理解を妨げる短い複合語や略語

区切ると意味の理解を妨げる短い複合語や短い略語は、ひと続きに書き表す。また、内部に助詞などを含んでいても、1語として熟している短い複合語も、ひと続きに書き表す。

[医学用語の例]

ハイエン (肺炎)	ハリシ (鍼師)	ウノー (右脳)
ヒンニョー (頻尿)	イチョー (胃腸)	キンマク (筋膜)
ノーシ (脳死)	ゼツガン (舌癌)	
テクビ (手首)	ハナカゼ (鼻風邪)	ケアナ (毛穴)
カタコリ (肩凝り)	フクラハギ (脹ら脛)	

ツチフマズ（土踏まず） バネユビ（バネ指）
ハイシャ（歯医者） ムシタオル（蒸しタオル）
ノリモノヨイ（乗り物酔い）
セキソン（脊損） セキチン（赤沈）
ガンシン（眼振） センコダツ（先股脱）
カミノケ（髪の毛） ウオノメ（魚の目）
カンノムシ（疳の虫）

2. 接頭語や接尾語など

接頭語や接尾語などは、本来独立性の弱い要素なので、接頭語などは独立性の強い意味のまとまりの前に、接尾語などは後ろに続けて書き表す。

[医学用語の例]

サシンシツ（左心室） ダイドーミヤク（大動脈）
ケイシンケイ（頸神経） シャコッセツ（斜骨折）
カガイテン（過外転） ビシッカン（鼻疾患）
トーバンジョーキン（頭板状筋）
ガク ⋮ ⋮ フクキン（顎二腹筋）
ゼンセイチューセン（前正中線）
ハンシャキュー（反射弓） トーニョービョー（糖尿病）
ヒナイシン（皮内鍼） シンサツシツ（診察室）
オトガイコー（オトガイ孔） ビタミンザイ（ビタミン剤）
シスーベン（指数弁） ハイドーミヤクコー（肺動脈口）
リンパセツシュ（リンパ節腫） ダイタイコツケイ（大腿骨頸）

【注意】接頭語などの独立性の弱い要素であっても、意味の理解を助ける場合には、発音上の切れ目も考慮して区切って書き表してもよい。また、「等」などは意味の理解を容易にするために、区切って書き表す。

[医学用語の例]

コー□ウイルスヤク（抗ウイルス薬）
コー□セイシンヤク（向精神薬）　ヒ□トクイテキ（非特異的）
ヒ□コージョーセイ（非恒常性）
チャー□テイタイオン（超低体温）
リョー□ビモーカン（両眉毛間）
アンマ□マッサージ□シアツシ^ニ□ハリシ^ニ□キューシ□トー
（あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等）

3. 複合名詞の構成要素の意味のまとまりと切れ続き

（1）複合名詞の構成要素のうち、3拍以上の独立性の強い意味のまとまりが二つ以上あればその境目で区切って書き表し〔例1〕、2拍以下の意味のまとまりは3拍以上の意味のまとまりの前か後ろに続けて書き表すことを原則とする〔例2〕。

[医学用語の例]

[例1]　オトガイ□リューキ（オトガイ隆起）

カンセツ□ネズミ（関節ねずみ）　アヒル□ホコー（あひる歩行）
イタミ□シゲキ（痛み刺激）
ムスメ□センショクタイ（娘染色体）
ガイソク□ジョーカ（外側上顆）
シキュー□ケイガン（子宮頸癌）
ケツアツ□ソクテイ（血圧測定）
テキシュツ□シュジュツ（摘出手術）
カスイタイ□ゼンヨー（下垂体前葉）
ナイテンキン□レッコー（内転筋裂孔）
ダイタイコツ□ケイブ（大腿骨頸部）
キカンシ□ゼンソク（気管支喘息）
カンケツセイ□ハコー（間欠性跛行）

エネルギー □ タイシャ (エネルギー代謝)
リハビリテーション □ センター (リハビリテーションセンター)
アタマ □ リンキュー (頭臨泣)
アタマ □ キョーイン (頭竅陰)
インヨー □ キョジツ (陰陽虚実) キケツ □ エイエ (気血栄衛)
ソフト □ コンタクト □ レンズ (ソフトコンタクトレンズ)
フクジン □ ヒシツ □ ホルモン (副腎皮質ホルモン)
ケイコツ □ カカン □ リューキ (脛骨顆間隆起)
チューシン □ ジョーミヤク □ エイヨー (中心静脈栄養)
コーゲン □ コータイ □ ハンノー (抗原抗体反応)
シンケイセイ □ キョーチョー (神経性協調)
インケイ ハイ □ シンケイ (陰茎背神経)
インケイ シン □ ドーミヤク (陰茎深動脈)
ジョーワン シン □ ドーミヤク (上腕深動脈)
キョーコツ ボー □ リンパセツ (胸骨傍リンパ節)
ガンカ ジョー □ セツコン (眼窩上切痕)
シナプス ゼン □ マツタン (シナプス前末端)
フクマク コー □ キカン (腹膜後器官)
ダイインシン コー □ レンゴ (大陰唇後連合)
カンセツホー ガイ □ ダッキュー (関節包外脱臼)
キンチョー セイ □ ケイハンシャ (緊張性頸反射)
センイ □ ガサイボー (線維芽細胞)
ケンコー □ オージンタイ (肩甲横靭帯)
カンツイ □ オージンタイ (環椎横靭帯)
ガンメン □ オードーミヤク (顔面横動脈)
サシンボー □ シャジョーミヤク (左心房斜静脈)
シキュー □ コーカンマク (子宮広間膜)
ショーソク □ シジョーミヤク (掌側指静脈)

[例 2]

<u>ニョー</u> サイカン (尿細管)	<u>キン</u> ボースイ (筋紡錘)
<u>キン</u> センイ (筋線維)	<u>ノー</u> シンケイ (脳神経)
<u>ハイ</u> ドーミヤク (肺動脈)	<u>ゼツ</u> ニュートー (舌乳頭)
<u>カタ</u> カンセツ (肩関節)	<u>イ</u> アツコン (胃圧痕)
<u>チツ</u> ゼンテイ (腔前庭)	<u>ハイ</u> ジュンカン (肺循環)
<u>エン</u> カイナイキン (円回内筋)	<u>イ</u> カメラ (胃カメラ)
<u>テツ</u> アレイ (鉄アレイ)	<u>コツ</u> カンシ (骨鉗子)
サイボー <u>マク</u> (細胞膜)	タンパク <u>ニョー</u> (蛋白尿)
セイタイ <u>ヒダ</u> (声帯ひだ)	ケッチョー <u>ヒモ</u> (結腸ひも)
ソーキ <u>ガン</u> (早期癌)	ジョーイ <u>ノー</u> (上位脳)
ハイセイ <u>シン</u> (肺性心)	ケツエキ <u>ガス</u> (血液ガス)
キョクショ <u>ネツ</u> (局所熱)	シントー <u>アツ</u> (浸透圧)
☺☺☺ <u>シ</u> チョー (十二指腸)	☺☺☺ <u>カク</u> キン (三角筋)
ケンコーカ <u>キン</u> (肩甲下筋)	
センシクッ <u>キン</u> ケン (浅指屈筋腱)	
ナイブンピツ <u>セン</u> (内分泌腺)	カイセン <u>ジュツ</u> (回旋術)
ムコン <u>キュー</u> (無痕灸)	シュジュツ <u>ダイ</u> (手術台)
セキズイ <u>ネコ</u> (脊髄ねこ)	
<u>テ</u> サンリ (手三里)	<u>コシ</u> ョーカン (腰陽関)
<u>アシ</u> ゴリ (足五里)	
<u>ノー</u> コーソク (脳梗塞)	<u>イ</u> カイョー (胃潰瘍)
<u>カン</u> コーヘン (肝硬変)	<u>ハイ</u> キシユ (肺気腫)
<u>コツ</u> ニクシュ (骨肉腫)	テニス <u>ヒジ</u> (テニス肘)
☺☺☺ <u>カタ</u> (五十肩)	スペイン <u>カゼ</u> (スペイン風邪)
インケイ □ <u>ワナ</u> ジンタイ (陰茎わな靱帯)	
エイン □ <u>ケン</u> チューシン (会陰腱中心)	
クルマイス □ <u>テニス</u> (車椅子テニス)	

【注意 1】 語頭にある接頭語など独立性の弱い要素は、後ろの語に

続けて書き表す〔例 1〕。ただし、マスあけを含む複合語全体にかかる場合には、その後ろで区切って書き表す〔例 2〕。

〔医学用語の例〕

〔例 1〕 コーケツアツ □ ショージョー（高血圧症状）
カハンシン □ フズイ（下半身不随）

〔例 2〕 チョー □ ボシ □ シンキン（長母指伸筋）
セン □ ヒコツ □ シンケイ（浅腓骨神経）
ナイ □ コーモン □ カツヤクキン（内肛門括約筋）
コ □ セキズイ □ シショーロ（古脊髄視床路）
ジョー □ ショーノー □ ドーミャク（上小脳動脈）
ダイ □ コートー □ シンケイ（大後頭神経）
ソー □ チョーコツ □ リンパセツ（総腸骨リンパ節）
カ □ カンセツ □ トッキ（下関節突起）
オー □ コーガイ □ ホーゴー（横口蓋縫合）
キョー □ シンゾー □ シンケイ（胸心臓神経）
シツ □ ジュージ □ ジンタイ（膝十字靭帯）
ジョー □ チョーカンマク □ ドーミャク（上腸間膜動脈）

【注意 2】複合名詞の一部が 3 拍以上の動詞から転成したものまたは形容詞の語幹を含んでいるものは、独立性が弱く区切ると意味の理解を妨げる場合には、続けて書き表してもよい。

〔医学用語の例〕 カラエズキ（空えずき）
キューアタリ（灸あたり） オモダルサ（おもだるさ）
タチクラミ（立ちくらみ）

（2）複合名詞の構成要素のうち、2 拍以下の独立性の強い意味のまともりは、意味の理解を助ける場合には後ろまたは前の独立性の強い意味のまともりの間を区切って書き表してもよい。（ただし、2 拍以下の

名詞の中には、複合語全体の中で、独立性の強い意味のまとまりとして役割をはたしているのか、独立性の弱い要素なのかの解釈には幅が見られる例もある。例：「意気、椅子、義理、味噌、柚子、胡麻」など）

[医学用語の例] キン□シューシュク（筋収縮）

キン□ヒロー（筋疲労）	キン□トーンズ（筋トーンズ）
ノー□ケツリユ（脳血流）	ガス□コーカン（ガス交換）
イ□ウンドー（胃運動）	キノ□タイシャ（基礎代謝）
テツ□タイシャ（鉄代謝）	ヒフ□ハンシャ（皮膚反射）
ケン□ハンシャ（腱反射）	セキ□ハンシャ（咳反射）
ニョー□シツキン（尿失禁）	コツ□ハカイ（骨破壊）
コツ□サイセイ（骨再生）	ウツ□ジョータイ（うつ状態）
シン□シツカン（心疾患）	ノー□ケツカン（脳血管）
コツ□キシツ（骨基質）	ジン□ズイシツ（腎髄質）
ノー□ジツシツ（脳実質）	
カン□キノー（肝機能）	ハリ□シゲキ（鍼刺激）
ドク□カクサン（毒拡散）	ネツ□コーカ（熱効果）
アツ□バランス（圧バランス）	
カン□セイケン（肝生検）	シン□エコー（心エコー）
イ□センジョー（胃洗浄）	ハイ□セツジョ（肺切除）
コツ□イショク（骨移植）	ハリ□チンツ（鍼鎮痛）
キュー□チリョー（灸治療）	ガス□メツキン（ガス滅菌）
イリョー□ミス（医療ミス）	シカ□イシ（歯科医師）
ノー□ゲカ（脳外科）	
ジン□フゼン（腎不全）	コツ□エシ（骨壊死）
キン□マヒ（筋麻痺）	ハイ□スイシュ（肺水腫）
ノー□キョケツ（脳虚血）	
ハイ□キキョ（肺気虚）	カン□ケツキョ（肝血虚）
ヒ□ヨーキョ（脾陽虚）	
ハイ□センイショ（肺線維症）	

コツ □ ソショーショー (骨粗鬆症)
 スイ □ コーヘンショー (腓硬変症)
 ヒザ □ クッキョクイ (膝屈曲位)
 アツ □ ジュヨーキ (圧受容器)
 チツ □ ジョーミャクソー (腔静脈叢)
 ゼツ □ セイチューコー (舌正中溝)
 ハナ □ アレルギー (鼻アレルギー)
 キン □ カキンチョー (筋過緊張)
 コツ □ シンチグラム (骨シンチグラム)
 ケン □ ホーゴーホー (腱縫合法)
 コツ □ ナンコツシュ (骨軟骨腫)
 ナイカ □ イシ (内科医師)
 ローテーター □ カフ (ローテーターカフ)
 アンギオテンシン □ ☺☺☺ (アンギオテンシン I)
 ケイシンケイ □ ワナ (頸神経わな)
 トー □ フカ □ シケン (糖負荷試験)
 テイシューハ □ ハリ □ ツーデン (低周波鍼通電)
 イ □ ケッチョー □ カンマク (胃結腸間膜)
 イ □ ヒ □ カンマク (胃脾間膜)
 カ □ ヒ □ ☺☺☺シチョー □ リンパセツ (下脾十二指腸リンパ節)
 キン □ イシュクセイ □ ソクサク □ コーカショー
 (筋萎縮性側索硬化症)
 アツ □ ハッカン □ ハンシャ (圧発汗反射)
 カタ □ カンセツ □ キコー (肩関節機構)
 ノー □ シンケイ □ ゲカ (脳神経外科)
 ノー □ シンケイ □ サイボー (脳神経細胞)
 コージ □ ノー □ キノー □ ショーガイ (高次脳機能障害)
 ヒト □ タイ □ ヒト □ ジンコー □ コキュー (人対人人工呼吸)
 ホキョ □ シャジツ (補虚瀉実)

以下の点線枠内では、「医学表記」初版にある特有用例を示した。

1. 名称や呼称としての性格が強いものと現象や行為等の説明について

3. (1) の本則 [例 2] には、2 拍以下の独立性の弱い要素で、区切ると意味の理解を妨げるおそれのある用例を集めた。これらの用例は、ひと続きの名称や呼称としての性格が強い。

3. (2) の本則の [例] には、2 拍以下の独立性の強い意味のまとまりで、意味の理解を助ける場合には後ろまたは前の独立性の強い意味のまとまりとの間を区切って書き表してもよい用例をあげた。これらの用例は、現象や行為等を説明しているものが多い。

2. 病名と病態表現について

病気に関係する用例に病名と病態の表現がある。病名は、特定の病気を指し示す用例であり、区切ると意味の理解を損なうおそれがある。「胃潰瘍、肝硬変、肺気腫、骨肉腫、テニス肘」などは、その観点で (1) の本則の [例 2] に掲げた。

病態の表現は、病気の際に現れる症状や病変などを指し示す用例であり、区切って書き表すことで意味の理解を助ける。「腎□不全、骨□壊死、筋□麻痺、肺□水腫、脳□虚血」などは、その観点で (2) の本則の [例] に掲げた。

しかし、病名か病態の表現かの判断に迷うものも少なくない。そこで、書き手が両者を区別し難い場合は、病名であっても病態の表現であっても続けて書き表し、病名か病態の表現かの判断は読み手にゆだねることとする。

3. 単独で名詞となることのない漢語的表現について

次に掲げる漢語的表現は、通常単独で名詞となることはない。しかし、医学用語内部の切れ続きにおいては独立性の強い意味のまとまりとして扱う。

(1) 略語や略称を表す漢語

[例]

トーシャク □ カンセツ (橈尺関節) : 橈骨・尺骨

カンジク □ カンセツ (環軸関節) : 環椎・軸椎

チョーケイ □ ジンタイ (腸脛靭帯) : 腸骨・脛骨

キョシヨージュウ □ カンセツ (距踵舟関節) : 距骨・踵骨・舟状骨

ケイケンワン □ ショーコウガン (頸肩腕症候群) : 頸・肩・腕

センキョク □ ジンタイ (仙棘靭帯) : 仙骨・坐骨棘

センケッセツ □ ジンタイ (仙結節靭帯) : 仙骨・坐骨結節

キョーケンポー □ ドーミヤク (胸肩峰動脈) : 胸郭・肩峰

キョーフクヘキ □ ジョーミヤク (胸腹壁静脈) : 胸壁・腹壁

ガクゼッコツキン (顎舌骨筋) : 下顎骨・舌骨

オートツキョクキン (横突棘筋) : 横突起・棘突起

ケイトツ □ ゼッコツキン (茎突舌骨筋) : 茎状突起・舌骨

キョーサ □ ニユートツキン (胸鎖乳突筋) : 胸骨・鎖骨・乳様突起

シ □ エンチョージュツ (肢延長術) : 上肢または下肢

(2) 神経や血管、その他対象物の所在・走行・方向・深さ・大きさ・長さなどを表す漢字2字以上の漢語

[例] ナイキョー □ ドーミヤク (内胸動脈)

ジョーデン □ シンケイ (上殿神経)

シンショー □ ドーミヤクキュー (深掌動脈弓)

ジョーケイ □ シンゾー □ シンケイ (上頸心臓神経)

チョーキョー □ シンケイ (長胸神経)

ケイオー □ ドーミヤク (頸横動脈)

ビシャ □ ジンタイ (尾斜靭帯)

コージュウ □ ジンタイ (後縦靭帯)

ジョーゼン □ チョーコツキョク (上前腸骨棘)

ジョーコー □ キョキン (上後鋸筋)

センコー □ センビ □ ジンタイ (浅後仙尾靭帯)
タンコー □ センチョー □ ジンタイ (短後仙腸靭帯)
ダイコー □ トーチョクキン (大後頭直筋)
ウコー □ ガイソクシ (右後外側枝)
チュージョー □ シソーシ (中上齒槽枝)
カコー □ ビシ (下後鼻枝)
コーカ □ ショーノー □ ドーミヤク (後下小脳動脈)
シンオー □ チューシュ □ ジンタイ (深横中手靭帯)
カセン □ ソケイ □ リンパセツ (下浅鼠径リンパ節)

(3) 語尾にあって漢字2字で形態や空間などを表す漢語

[例] リジョーキ □ カコー (梨状筋下孔)

ガンカ □ カコー (眼窩下孔) ガンカ □ カカン (眼窩下管)

コーマク □ ジョークー (硬膜上腔)

クモマク □ カクー (クモ膜下腔) ソクトー □ カカ (側頭下窩)

ガイソクカ □ ジョーリョー (外側顳上稜)

㊦㊦カクキン □ カホー (三角筋下包)

ケンポー □ カホー (肩峰下包) チコツ □ カカク (恥骨下角)

キョーコツ □ ボーセン (胸骨傍線)

サコツ □ チューセン (鎖骨中線)

ケッセツ □ カンコー (結節間溝)

【注意1】 2拍以下の意味のまとまりのうち、独立した名詞と考えられているものは、前または後ろの独立性の強い意味のまとまりとの間を区切って書き表す。

[医学用語の例] ノー □ ゼンタイ (脳全体)

ゼツ □ ヒョーメン (舌表面)

【注意 2】漢字 4 字以上の漢語名詞で、区切ると意味の理解を妨げるものは続けて書き表すことを原則とする。独立性の強い意味のまとまりの前か後ろに、独立性の弱い要素などが一つ以上付け加えられたと思われるものを含む [例 1]。

独立性の弱い要素などが複数付け加わった場合には、それらが結びついて、独立性の強い意味のまとまりとしての役割をはたすものもある。その場合には、3. (1) [例 1] および (2) の [例] に基づいて、二つの意味のまとまりの境目で区切って書き表してもよい [例 2]。

[医学用語の例]

[例 1] ソ ケ イ ド ー ミ ャ ク (総頸動脈)

ナ イ ケ イ ド ー ミ ャ ク (内頸動脈)

ジ ョ ー ダ イ ジ ョ ー ミ ャ ク (上大静脈)

チ ョ ー シ ク ツ キ ン (長指屈筋) カ ジ ユ ー ゼ ツ キ ン (下縦舌筋)

シ ン チ ユ ー リ ン パ セ ツ (深肘リンパ節)

ホ ー カ シ キ エ ン (蜂窩織炎) シ ョ ー ニ シ ン ポ ー (小児鍼法)

ケ ン ビ キ ョ ー カ (顕微鏡下)

ワ ン シ ン ケ イ ソ ー (腕神経叢)

ジ ョ ー セ ン シ ョ ク タ イ (常染色体)

フ ナ イ ガ イ イ ン (不内外因) イ ヒ ロ ー セ イ (易疲労性)

カ ガ ン カ レ ツ (下眼窩裂)

[例 2] シ シ ョ ー カ ブ (視床下部)

ケ ン コ ー カ ン ブ (肩甲間部)

【注意 3】漢字 1 字ずつが、すべて 2 拍以下の意味のまとまりで、対等な関係で並んでいる場合には、意味の理解を容易にするために適宜区切るかすべてを続けて書き表す。

[医学用語の例] テ カ チ ビ ョ ー (手足口病)

ノー□カン□ジン□ショーコーグン（脳肝腎症候群）

カタ□テ□ショーコーグン（肩手症候群）

モク□カ□ド□キン□スイ（木火土金水）

ボー□ブン□モン□セツ（望聞問切）

スン□カン□シャク（寸関尺）

VI 漢方薬などの名称の切れ続きなどについて

漢方薬は一般に漢方医学における薬物として用いられ、5～15味の生薬を組み合わせ、主に湯剤（煎剤）として服用されるものである。

漢方薬の調合素材である生薬は日本薬局方において動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物、または鉱物などで医薬品として収載されている。いわゆる草・根・木・皮や犀の角・熊の胆などの類で自然物を薬用として用いる点に特徴がある。

これらの漢方薬関係の用語の切れ続きは、基本的には以下のように行う。

1. 生薬名の切れ続きについて

生薬の名称には生薬の産地や製造法などを素材名の前に付したものがあるが、多くは漢字1字・2拍以内であるので切らずに表記する。

〔例〕	ワソージュツ（和蒼朮）	ドニンジン（土人參）
	サンシャクヤク（山芍薬）	カラモッコウ（唐木香）
	ヤキクカ（野菊花）	ホーブシ（炮附子）

2. 漢方薬名の切れ続きについて

漢方薬の命名は調合される生薬や調合方法あるいは煎じ薬・丸薬・粉薬など薬物の方式などを表現しているものが多い。

【調合する生薬に付属される用語例】

前置されるもの：加減。加味。

生薬の間に配置されるもの：加。去。合。

後置されるもの：丸。散。湯。飲。飲子。丸料。丹料。

そこでこうした命名の意味が判読できることを基本として、以下のよ

うに書き表す。

(1) 前置・後置されるものについて

ア. 漢字1字2拍以内のものは独立性の弱い要素としてひと続きに書き表す。

湯、散、丸、膏、丹、飲などは前の語に続ける。

[例] ケイシトー (桂枝湯) マフツサン (麻沸散)

⋮⋮ミ □ ジオーガン (八味地黄丸)

イ. 漢字2字以上・2拍以上のものは独立性の強い意味のまとまりとして区切って書き表す。

加減、加味、飲子、飲料、丸料、丹料などの前は区切って書き表す。

[例] カゲン □ シャハクサン (加減瀉白散)

ケイシ □ ブクリョー □ ガンリョー (桂枝茯苓丸料)

カミ □ ショーヨーサン (加味逍遙散)

ウ. 生薬間に配置される文字＝加、去、合など

前後の生薬の調合法を示している語は、漢字1字であっても意味の理解を助けるために前を区切って書き表す。

[例] ケイシ □ キョ □ シャクヤク □ カ □ ショクシツ □ ボレイ □

リユーコツ □ キューギャクトー (桂枝去芍薬加蜀漆牡蠣竜骨救逆湯)

ショーサイコ □ ゴー □ ハンゲ □ コーボクトー (小柴胡合半夏厚朴湯)

ただし、生薬の名前に加、去、合の文字が含まれているものはひと続きに書き表すよう留意する。

[例] ビャクゴー □ ケイシトー (百合鷄子湯)

(2) 生薬名が複数並んでいる場合の切れ続き

生薬名が複数並んでいる場合には、1 生薬名ごとに区切って書き表す。

また、生薬名の 1 字を取って並んでいる場合も区切って書き表す。

[例] アキョー□ケイシオートー（阿膠鶏子黄湯）

← 阿膠 鶏子黄

リョー□カン□キョー□ミ□シン□ゲ□ニントー

（苓甘姜味辛夏仁湯）← 茯苓甘草乾姜五味子細辛半夏杏仁

（ブクリョー カンゾー カンキョー ゴミシ サイシン

ハンゲ キョーニン）

（3）人名に氏が付いている漢方名の切れ続き

人名に氏が付いている漢方名の氏は続ける。

[例] シンシ□カツ□ボクトー（沈氏葛朴湯）

（4）数量の意味が薄れた語や生薬名の数字の書き方

数量の意味が薄れた語や生薬名の数字は、仮名で書く。

[例] ジューゼン□ダイホトー（十全大補湯）

リョー□カン□ゴミ□キョー□シントー（苓甘五味姜辛湯）

V 同音異穴の点字注記について

1. 経過および注記の考え方

現在日本国内で使用されている「経絡経穴概論」の教科書には、WHOが定めた361の経穴が掲載されている。その中には、異なる経穴でありながら同じに発音するいわゆる同音異穴が17組含まれている。これらは漢字で表記すれば文字が異なるので一目瞭然であるが、漢字を用いない点字では読み手の理解を助けるために何らかの工夫が必要となる。

日本点字委員会はこの点に注目し、1994年開催の第30回総会でこの問題を取り上げ、研究討議の結果を『日本の点字 第20号』に「同音異穴の点字注記標準化についての提案」として掲載した。この提案をベースとしつつ、その後の時間経過の中で生じた幾つかの変化を考慮してこの稿を作成した。例えば、客主人の正式名称が上関に変わったことで、同音異穴が16組から17組に増えた。また、同字同音異穴であった竅陰・五里・三里・通谷・陽関・臨泣が、部位名を冠して、頭竅陰・足竅陰・手五里・足五里・手三里・足三里・腹通谷・足通谷・腰陽関・膝陽関・頭臨泣・足臨泣となったことにより、これら6組は同音異穴から完全に外れることとなった。

(1) 注記の考え方

同音異穴を注記によって区別するという事は、経穴名以外の観点で説明して経穴を区別するという事にほかならない。その観点として次の四つが考えられる。

- (1) 経穴の国際番号
- (2) 所属経絡名
- (3) 部位説明
- (4) 漢字説明

これらのうちどの観点で説明するかは、その場の状況に応じて最も適

切な観点を選ぶ必要がある。例えば、試験問題で経穴の所属経絡名を問うような場合、経絡名で注記するわけにはいかない。また、部位を尋ねる問題では、部位説明による注記は用いられない。書き手は、注記一般の原則である短く簡潔で分かりやすくを旨とし、その場その場に応じた柔軟な対応を求められることとなる。

次に、四つの観点について詳述する。

(1) 経穴の国際番号

1989年にジュネーブで開催されたWHOの鍼用語標準化国際会議の決定に従うこととする。

(2) 所属経絡名

経絡のフルネームは長いので、例えば「肺経」「大腸経」など臓腑名のみを含む短縮形で示すのが妥当と考えられる。

なお、天宗（肩）と天窓（頸）は、共に小腸経なので、「小腸経 11」「小腸経 16」のように番号を併記して区別することが考えられる。

(3) 部位説明

同字同音異穴に関するWHOの呼称に準拠し、「手」「足」「顔」「腹」などの語で表すことが考えられる。

腹部と大腿部の境にある脾経の衝門は、「足五里」にならって「足」がよいであろう。「腹」では肝経の章門との区別ができない。同じように、臀部と大腿部の境にある膀胱経の承扶は「足」、腋窩にある心経の極泉は「手」がよいと考えられる。

また、肺経の少商と心経の少衝は共に手にあるので、肺経の少商は「母指（ボシ）」、心経の少衝は「小指（ショウシ）」と細かく表現することが考えられる。

(4) 漢字説明

少海と小海のように漢字1字だけが異なる場合は、その異なる1字だけを取り上げて説明し区別することが考えられる。承泣と商丘のように漢字2字とも異なる場合は、2字ともに取り上げて説明することが考えられる。

また、漢字説明の仕方については、次の優先順位が考えられる。

ア. 常用訓のある漢字は、その常用訓

[例] 曲泉（キョクは曲がる） 商丘（商う、オカ）

イ. その漢字を含む熟語

[例] 衝陽（ショーは衝突のショー）

不容（不可能のフ、内容のヨー）

ウ. その漢字の部首など字形

[例] 下腕（カンは肉月に完全のカン）

箕門（キは竹冠に代名詞のソレ）

エ. その漢字の意味

[例] 懸釐（懸ける、治める意味のリ）

顛髎（ケンけんりょうは頬骨ほおぼねを意味する大貝のケン）

（２）注記の付け方

（１）注記を文中に入れると文の流れを中断することになる。そこで、必要最小限度にとどめ、入れる場合も短く簡潔にを大原則とする。

（２）同音異穴であっても、前後の文脈から明らかにその経穴を特定できる場合は、注記を入れる必要はない。また、同じ経穴が繰り返し出てくる場合で、最初に注記すれば足りる場合は、後の繰り返しには注記を付ける必要はない。

（３）注記の前後は、点訳では点訳挿入符、書下ろしなどではカッコ類で囲む。なお、書下ろしなどで、墨字版と点字版に共通の説明カッコを第１カッコで表しており、それと注記のカッコを区別したい場合は、第２カッコや点訳挿入符などを用いることができる。

（４）注記の位置については、次のように考えられる。

ア. 経穴名の直後につけることを原則とする。

[例] 極泉（心経） 天窓（小腸経 11） 期門（腹）

小海（ショーは小さい） 少商（少ない、商う） 不容（S T 19）

イ. 文の流れを損なわないために、注記を経穴名の前におくこともできる。

[例] （肝経の）章門 （顔の）懸釐

ウ. 経穴名の直後に文中注記符を書き、欄外などに注記の内容を記載

する方法もある。

2. 注記の具体例

(1) キモン

箕門：S P 11 脾経 足 キは竹冠に代名詞のソレ

期門：L R 14 肝経 腹 キは期日のキ

(2) キョクセン

極泉：H T 1 心経 手 キョクは極まる

曲泉：L R 8 肝経 足 キョクは曲がる

(3) ゲカン

下関：S T 7 胃経 顔 カンはセキ

下脘：C V 10 任脈 腹 カンは肉月に完全のカン

(4) ケンリ

懸釐：G B 6 胆経 顔 懸ける、治める意味のり

建里：C V 11 任脈 腹 建てる、サト

(5) ケンリョー (リョーは骨偏にニカワのつくり)

顴髎：S I 18 小腸経 顔 ケンは頬骨^{ほおぼね}を意味する大貝のケン

肩髎：T E 14 三焦経 肩 ケンはカタ

(6) ショーカイ

少海：H T 3 心経 肘前面 ショーは少ない

小海：S I 8 小腸経 肘後面 ショーは小さい

照海：K I 6 腎経 足 ショーは照る

(7) ジョーカン

上関：G B 3 胆経 顔 カンはセキ

上脘：C V 13 任脈 腹 カンは肉月に完全のカン

(8) ショーキュー

承泣：S T 1 胃経 顔 承る、三水の泣く

商丘：S P 5 脾経 足 商う、オカ

(9) ショーショー

- 少商：L U 11 肺経 母指（ボシ） 少ない、商う
 少衝：H T 9 心経 小指（ショウシ） 少ない、衝突のショー
 承漿：C V 24 任脈 顔 承る、將軍のショウの旧字体の下に水
 (10) ショーフ
 少府：H T 8 心経 手 少ない、大阪府のフ
 承扶：B L 36 膀胱経 足 承る、扶養するのフ
 (11) ショーモン
 衝門：S P 12 脾経 足 ショーは衝突のショー
 章門：L R 13 肝経 腹 ショーは文章のショー
 (12) ショーヨー
 商陽：L I 1 大腸経 手 ショーは商う
 衝陽：S T 42 胃経 足 ショーは衝突のショー
 (13) シンドー
 神堂：B L 44 膀胱経 背外側 ドーは公会堂のドー
 神道：G V 11 督脈 背正中 ドーはミチ
 (14) チューリョー
 肘髎：L I 12 大腸経 手 チューはヒジ
 中髎：B L 33 膀胱経 尻 チューはナカ
 (15) テンソー
 天宗：S I 11 小腸経 11 肩 ソーは宗教のシュー
 天窗：S I 16 小腸経 16 頸 ソーはマド
 (16) フヨー
 不容：S T 19 胃経 腹 不可能のフ、内容のヨー
 跗陽：B L 59 膀胱経 足 足偏に付属のフ、陰陽のヨー
 (17) ヨーコー
 陽綱：B L 48 膀胱経 背 コーはツナ
 陽交：G B 35 胆経 足 コーは交わる

点字であるがゆえに同音異穴の取り扱いにおいて不利益を被ることがあるとすれば、それはまことに由々しいことと言わざるを得ない。極力そのようなことのないよう、条件整備に努めなければならない。